

公演企画書

三代目湯之介3～新春旅行へようこそ～（仮題）

テーマ

人は過去の行いを悔いてやり直したいと思ったり、未来を知りたいと思うが、過去や未来にこだわるより、今をしっかりと生きる事が大切である。

主催：Yプロジェクト

演出：鼓太郎

脚本：川手ふきの

2022年8月に好評を博した「三代目湯之介」がパート3.として上演決定！！

ボンクラ亭主と様々なゲストが巻き起こすドタバタハートフルコメディ。

時勢にあわせた作品を鼓太郎が演出。

【本番日程】

2024年1月10日～1月14日全8公演※ダブルキャスト

1/9(火)小屋入り

1/10(水)昼Aゲネ／19:00～A①

1/11(木)昼Bゲネ／19:00～B①

1/12(金)14:00～A②／19:00～B②

1/13(土)14:00～B③／19:00～A③

1/14(日) 12:00～A④／16:00～B④

【劇場】

渋谷伝承ホール キヤパ：345席(栈敷席含む)

〒150-0031東京都渋谷区桜丘町23-21

渋谷区文化総合センター大和田6F

JR渋谷駅南改札を出て西口から徒歩5分

【チケット代】 予定

プレミアム席：8, 0 0 0 円(特典付き)

指定席：6, 0 0 0 円

【応募資格】

ジャンル：俳優、女優（芸歴、経験問わず）年齢：20歳以上（事務所等所属者は許可を得ている事）ダンスシーンあります。ダンス出来る方歓迎原則、11月からの稽古に参加出来る事。注）12月21日～本番終了までNGが無い事（但し12月29日～1月3日正月休み）その他NGは要相談

【募集日程】

募集締切：9/25 一次審査：書類選考・合格者のみ連絡致します。二次審査：面談・オーディション日程2023年10月1～2日を予定・自己PR・台本読み等※課題は当日配布します。

※オーディション会場・集合時間等は、書類審査を通過された方に後日お知らせ致します。

【稽古日程】

顔合わせ：10/半ば予定、稽古開始：11/～（ダンス稽古等10月中に予定）

集中稽古（NG無）：12/20～28（12/29～1/3稽古休み）

【ノルマ・ギャラ】

条件により、ギャラ、チケットバック、ノルマあり

【応募方法】

メールにて応募 mail： ypro.theater@gmail.com

下記項目を記載の上、顔写真、[全身写真を各1枚添付し](#) 件名「三代目湯之介3」

公演募集係宛にご応募ください。

※頂いた資料は返却いたしません。オーディション選考のみに使用し個人情報選考後破棄いたします。

※記載内容※①氏名（ふりがな）芸名可②生年月日・年齢・性別③身長・体重・スリーサイズ④所属事務所、劇団（ない場合はフリーと記載ください）⑤ダンス経験の有無（有の場合は歴・ジャンルを記載）⑥趣味・特技⑦平均販売枚数(コロナ禍とコロナ禍前で)⑧連絡先電話番号⑨メールアドレス⑩住所

募集締切：2023年9月25日（火）23：59 まで

【役柄】

1 三代目池田湯乃介

2 池田美佐江（湯之介・妻）

3 セナT2856F93325 イケダ

4 梨緒（女中頭）

5 三河久美子（女中・哲の妹）

6 牛田和子（女中）

7 池田真知子（湯之介・母）

8 池田喜一郎（湯之介・父）

9 三河哲（酒屋・幼馴染）

10 小松新之丞（小松一座）

11 長田義智（小松一座）

12 南（小松一座）

13 奥茶川寅之助（客）

14 八木富士子（歌手）

15 戸塚保尚（面接&劇団員等）

16 西条るか（面接&ダンス）

17 笹山朋美（面接&ダンス）

18 小林涼子（面接&ダンス）

19佐藤寛太（巡査・幼馴染）

20立花ユキ（湯之介元カノ）

21蜷光太（劇団・時期）

22相馬孝雄（客&劇団員等）

23相馬千穂（客&劇団員等）

【あらすじ】

コロナ過を乗り越え、漸く普通の生活が戻った湯の町だったが、深刻な人手不足を抱えていた。

この3年で、将来に不安を感じ辞めて行った従業員や、逆に多くの従業員を抱える事が難しかった為、解雇せざるを得ない事情も有った。しかし、去年の夏からたくさんの観光客が湯の町に戻り、この正月は満員御礼。年末に急遽アルバイトを雇う事になったひととき荘にある女性が面接に来た。その女性はセナ（仮名）と言い、ひととき荘の看板とも言える古時計をじっと見て、自分はひととき荘やその家族の事をよく知っていると言ふ言動をする。それを聞いてドキリとする館主の湯之介は、これまで何度か過去の女性がこの旅館に乗り込んできている。もしかするとセナも自分と何か関係の有る女性かも知れない。焦る湯之介を見て、妻の美佐江も敏感に察知する。従業員希望者は思いのほか集まったので、湯之介はセナの雇用を見送ろうとするが、美佐江は秘密を暴こうと彼女を雇いたいと言う。

お正月の準備に大忙しとなるひととき荘。湯之介の母で、大女将・真知子と先代館主の喜一郎は、いつもは喧嘩ばかりしているが、何故か穏やかで今年のお正月は二人で旅行に行くと言い出す。正月の忙しい時に旅行なんてあり得ないと怒る湯之介だったが、喜一郎は1月3日には必ず帰って来るからと断固として譲らない。しかも、喜一郎の言動には一貫性が無く、何やら不自然。湯之介は喜一郎が何かを隠しているに違いないと思い、問いただす。

一方、美佐江はセナに仕事を教えながら、彼女が湯之介とどんな関係かを探っていた。すると自分は湯之介の妹だと言いだす。20年前、喜一郎が旅館を飛び出し放浪している時の隠し子だと。美佐江は大女将に絶対に知られないようにと湯之介に相談する。すると湯之介はちょっと待っていてと物陰に隠れると、すぐに出て来てその話は嘘だと言う。何を根拠に嘘だと言うのか、美佐江にはまったくわからなかったが、さっきまで着ていた湯之介の服がかなりすす汚れている事を不思議に思う。湯之介の言う通りだとしたら、何故セナは湯之介の妹だなどと嘘をついたのだろう。美佐江は真相を知りたいが、湯之介はあまり興味が無い。それよりも湯之介には今、やりたい事が有った。

忙しい年末の仕事の合間に、湯之介は幼馴染で酒屋の三河哲を呼び出し、とんでもない告白をする。

「自分は人生をやり直そうと思う。東京でスターになる」と。訳の分からない哲に「お前も本当にやりたかった事があったら？ 酒屋なんか継ぐより、お前がやりたかった事は何だ？」と問う。哲はだったら自分も東京に行きたかったと言う。しかし、そんなものは夢物語だと言うと、湯之介がおかしな形

の腕時計を出し、これで時空を旅出来ると言うのだ。湯之介が時計をタッチすると、二人のいる空間が歪み、ねじれ、そこは20年前の東京となる。

地デジの放送が開始され、六本木ヒルズがグランドオープン。さいたま市が政令指定都市となり、大江戸温泉物語がオープン。ニーハイブーツやなんちゃって制服が流行し、ipadが新商品。「なんでだろう～」とジャージの若者が踊り、世界に一つだけの花が流れる2003年に来た湯之介と哲。あの時、テレビ番組のヒーローもの「グレートジャスティ」のオーディションに合格していれば、自分は必ずスターになっていたと信じている湯之介はオーディション会場に行き、自分は20歳の新人だと嘘を付きオーディションを受ける。

オーディションを受けては、未来に行き結果を見る、それを何度も繰り返すが、まったく合格できない。諦めて他の方法を探そうと試行錯誤する湯之介は、どう頑張っても結局中規模劇団の看板俳優止まりだった。

ある時、劇団員が、今売れっ子の俳優の話をしているのを聞いてみると、その俳優は、いつの間にか、グレートジャスティのオーディション会場で声をかけられ、悪役として起用され一斉を風靡し、スターとなっていた哲だった。湯之介は落胆し、自分は夢を諦め旅館に帰って温泉宿を継ごうと思う。哲もまた、芸能界の厳しさや都会の冷たさに疲れ果て、酒屋を継ぎたいと思う。

お互い、作り直した過去をなかった事にする方法を考え、元々居た未来に戻り、大人しく正月準備をする。あれだけ嫌だった旅館の仕事は楽しくなり、妻の美佐江に優しくなった湯之介。その姿を見てセナは湯之介の身辺を調べ始める。

正月が開け、たくさんのお客さんが訪れたひととき荘。ほっと一息つけるようになった1月3日の晩、

湯之介は哲と酒を飲んでいて。そこへ、旅行から血相を変えて帰って来た喜一郎が、早く旅館に戻れと怒る。急いでひととき荘に戻ると、旅館が燃えていた。

母の真知子と美佐江は、古時計だけはと時計を炎の中から運び出そうとする、喜一郎と湯之助も手伝い、なんとか時計は運び出したが、すっかり壊れてしまった。

父は湯之介に怒る。腕時計は渡すが1月3日だけは旅館から離れるなどと言ったはずなのに、すっかり忘れて酒を飲んでいて湯之介。実は、タイムトラベルの腕時計は喜一郎が正月の旅の承諾と引き換えに湯之介に渡したものだ。喜一郎は、何故急に旅行に行こうなどと言い出したかと言うと、自分はこの火事の怪我で病院に行ったとき、真知子に言われ色々と検査をした時に肺に影が見つかった。恐らく癌で、余命いくばくも無いだろう。不摂生だった過去を悔いた時、年末の大掃除で拾いポケットに入れたままだったこの変わった時計が自分を過去に戻してくれたのだと言う。時間旅行をしている間も癌は身体を蝕んでいるかもしれないから、戻るのはほんの数日にしていた。そして、死を前に自分は何をするべきかと考えた時、長年盆暮れ正月と働きづめだった真知子を、一度ゆっくりと旅行に連れて行きたいと思ったのだそうだ。旅館が火事になる事は知っていたので1月3日には帰って来るつもりだったが、結局火事は防げなかった。喜一郎は、湯之介から腕時計を奪い返し、旅行から帰る時間を少し早めにし、火事を阻止しようとする、そこにセナが現れ、その時計は自分のものだから返して欲しいと言う。そして、過去を変えるわけにはいかないから壊れた古時計の事は諦めてくれと言う。

セナは未来から来たと言う。自分の家に先祖代々伝わる壊れた古時計が、元気に動いているところを見たくてここにやって来たと。セナの生きている時代では時間移動が可能となっていた。しかし、そのせ

いで人々は感情を失っていた。セナの家族はこの古時計を大切にし、時間というものの大切さを代々伝えられてきた。湯之介も時間旅行をして、過去を変えようとしても結局は自分が今選んだ道に必ずたどり着くと学んだ。大切なのは今だ。時計が壊れたからこそ、時の大切さを子孫が受け継いでくれていると言い、喜一郎と湯之介は、時間を戻す事を辞める。

セナは腕時計を受け取り、未来へ帰る。湯之介はふと思う。セナは一体何代後の子孫なんだろう？そして、自分と美佐江には子供が出来るのだろうか？美佐江が子どもを欲しがるから、何度かチャレンジしているが、全然子宝には恵まれない。自分は若い時に遊びすぎているし、もしかすると子供を持つことは無理なのではないか？と思っていた。不妊治療をする気力も無い。するとセナは、今年、夏の終わりに生まれる赤ちゃんが、私のおじいちゃんのおじいちゃんだと。それって自分と美佐江の子供の事なのか？と問うが、それには答えずにセナは未来へと帰ってしまう。

湯之介が病院で目覚める。

何が有ったかと聞くと、火事で時計を運んでいる途中に頭を打ち、救急車で運ばれた後、ずっと眠っていたのだと言う。まさかと思い、見舞いに来ていた哲や喜一郎に腕時計の事を聞くが、二人は知らないと言い、さらに喜一郎は正月に旅行なんて行っていないと言う。全ては夢だったのかと思う湯之介。ならばと思い出し、親父は癌じゃないのか？と聞くと、喜一郎は真知子に言われ、怪我のついでに病院で検査をし肺に影が見つかったが、悪性では無かったと言う。

やはり、夢だったのかと思う湯之介だが、この長い夢の中で自分はいろいろと知る事が出来たと思う。

そして、旅館の仕事をもっと一生懸命やり、美佐江には優しくしてやろうと誓う湯之介。

そんな湯之介に美佐江が言う「そうね、夏の終わりにはパパになるんだから」

セナは帰る時に、時計を落としたところに戻り、喜一郎が時計を拾わない過去に戻っていた。

しかし、頭を打った湯之介だけが何故か夢の中で記憶を保っていたのだ。

古時計は壊れてしまっていたが、自分達や家族の思いを受け継いでくれる子供の誕生が何よりもうれしい湯之介だった。

終わり